

算数の練習問題の指導について

子どもたちに算数の練習問題をさせるとき、

1. 定着度によって、問題解決のスピードに開きがある。
2. 面倒でやらない子どもがある。
3. 授業を十分理解していないため、問題解決ができない子どもがある。
4. 塾ですでに学習していて、極端に早く問題解決できる子どもがある。

指導者がしてはいけないこと

1. やらない、できない子どもをそのままにすること。
2. できない子どもをできた子どもが教えること。(小さな先生をつくること。)

まず、練習問題をやる前に、

1. 授業をしっかりして、十分に理解を図ること。
2. 理解の遅い子どもには、毎時間フォローすること。
3. やる気のない子どもをできるだけ少なくすること。
4. 補充問題を用意すること。

指導者のねらい

1. 全員が、練習問題をクリアする。
2. 時間内は、「遊ぶ子ども」「休憩する子ども」をつくらない。

そこで、私がよくやる方法を示す。

ただし、全員がやらなければいけないと感じていること、授業内容は、ほとんど理解しているはずが前提。

黒板

start	問題①	問題②	問題③	・ 補充問題 ・ チャレンジ問題 ・ 作問 など (ここは全員やらなくてもよい。)	end
全員の名札	できた人は、名札を移動させていく。				

指導者は、黒板を見て、遅れている子どもを呼び出して、指導する。

指導は、個別または、同じ問題で困っている子どものグループ

○つけは、指導者がした方がよいが、答え合わせを各自にさせてもよい。しかしチェックはする。

時間が終了すれば、できていない子どもをチェックし、後で個別指導。

その日のうちにとにかく全員をクリアさせる。